

## 第59回南日本文化賞

## 田川、築地の2氏に

## 団体は「こども医療」、鹿響



田川日出夫氏



築地 俊造氏

学術、芸術、社会活動など各分野で郷土の発展に貢献した個人、

団体を顕彰する第五十九回南日本文化賞(南日本新聞社主催)が十

日、二個人二団体に決まった。個人は環境部門に田川日出夫氏(七五)鹿児島大学名誉教授、屋久島環境文化村センター館長、民俗芸能部門に築地俊造氏(七三)奄美

の唄者。団体は医療部門のこども医療ネットワーク(鹿児島市、河野嘉文理事長)、芸術振興部門の鹿児島交響楽団(同市、豎山博美理事長)を選んだ。田川氏は植物生態学

を研究する一方、地球温暖化防止のため植林活動を実施。「みどり遣唐使」の団長として一九九〇年から中国に渡り、緑化ボランティアを行った。鹿児島市在住。築地氏は一九七一年から島唄・三味線

を学び、七九年には奄美で初めて日本民謡大賞を受賞した。世界各地の舞台で活躍し、島の伝承・発展に努めている。奄美市在住。団体のこども医療ネットワークは、県内の

小児科医らが集まり二〇〇五年に結成された特定非営利活動法人(NPO法人)。離島やへき地に住む病児や家族の負担を減らすため、宿泊所開設や支援金給付、健康相談会を行う。鹿児島交響楽団

は、設立三十五年を迎えたアマチュアオーケストラ。二〇〇三年には社団法人化を実現し、イタリア・ナポリのサンカルロ劇場で初の海外公演を成功させた。

南日本文化賞は一九五〇年に創設。中馬清氏(南日本放送キャスター)、石井祥氏(南日本銀行会長)、木部暢子氏(鹿児島大学法

文学部長)の五人が選考に当たった。贈賞式は十一月一日、鹿児島市の城山観光ホテルである。